

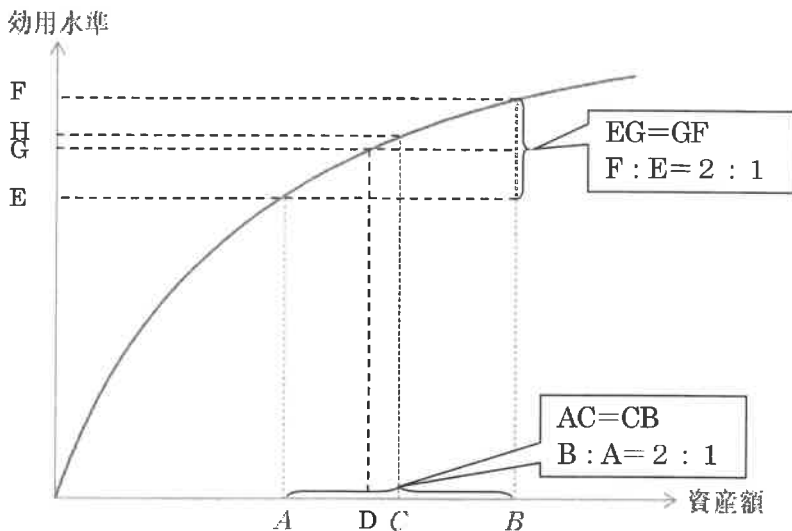
平成 26 年度第 23 問の解説におきまして、期待値と期待効用について混同を招く解説を行っていたため、下から 7 行目以下を、下記のように修正いたします。

(正)

問題文を整理すると下記の説明・図のとおりとなる。

状況 R : 50%の確率で高い資産額 B になり、50%の確率で低い資産額 A となるような不確実な状況

状況 S : A と B のちょうど中間の資産額 C を確実に得られる状況



この時、状況 R の期待効用は、資産額の比率 $B : A = 2 : 1$ に対応した $F : E = 2 : 1$ から導き出される G であり、状況 S の期待効用は資産額 C に対応した H である。状況 R の期待効用 G に対応した資産額は D となる。

図から見てもわかるとおり、状況 R の期待効用 $G <$ 状況 S の期待効用 H なので、期待効用は状況 R のほうが小さくなる。この時点で選択枝ウが適切であることがわかる。

次に、状況 R のリスクプレミアム = 状況 R における資産額の期待値 - 状況 R において確実に獲得できる資産額になる。

状況Rにおける資産額の期待値 = $(A \times 0.5) + (B \times 0.5) = C$ 、状況Rにおいて確実に獲得できる資産額がDとなる。

$C > D$ なので、リスクプレミアムは正の値となる。

よって、ウが正解である。